



関連科目，教科書および補助教材	
関連科目	簿記概論Ⅰ・Ⅱ、原価計算論Ⅰ・Ⅱ、経営財務論Ⅰ・Ⅱ
教科書	「財務会計入門」 桜井久勝・須田一幸(有斐閣)
補助教材等	プリント

**学習上の留意点**

本講義では、企業が外部の利害関係者に対して経営成績や財務状態を報告する目的で実施している財務会計について学習する。財務会計を学習するため、企業が会計処理と財務諸表の作成・公開にあたって準拠すべきルールとされている会計基準を深く理解する必要がある。

**担当教員からのメッセージ**

現在、会計基準はルールベースより原則主義へ変更しつつあります。それによって、会計基準を運用する際、会計専門家の判断が求められています。適切な判断をするために、現行の会計基準と会計実務を理解する上、分析的・批判的な思考が必要です。

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス	・シラバスを通じて、学習の意義や授業の進め方、および評価方法などを理解できる。	第1回で取り上げた内容の復習と第2回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
2	会計の種類・役割	・会計の種類、財務会計の法則、役割を理解できる。	第2回で取り上げた内容の復習と第3回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
3	財務会計の基本原則	・複式簿記の構造について理解できる。 ・損益法・財産法について理解できる。 ・B/SとP/Lの基本原則を理解できる。	第3回で取り上げた内容の復習と第4回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
4	企業の設立と資金調達①	・会社設立時の株式発行の処理について理解できる。 ・創立費と開業費について理解できる。	第4回で取り上げた内容の復習と第5回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
5	企業の設立と資金調達②	・社債の発行処理、新株発行の処理について理解できる。	第5回で取り上げた内容の復習と第6回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
6	仕入・生産活動①	・棚卸資産の取得原価の決定方法を理解できる。 ・取替原価と純実現可能価額を理解できる。	第6回で取り上げた内容の復習と第7回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
7	仕入・生産活動②	・賞与引当金、退職給付引当金について理解できる。	第7回まで取り上げた内容の復習。
8	<b>中間試験</b>		
9	答案返却・解答解説 販売活動①	・試験問題の解説を通じて、間違った箇所を理解できる。 ・貸倒れの意義と設定について理解できる。	第9回で取り上げた内容の復習と第10回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
10	販売活動②	・会計基準に定められた方法を用いて、売上原価を算定できる。	第10回で取り上げた内容の復習と第11回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
11	販売活動③	・販売基準を理解できる。 ・生産基準と回収基準を理解し、運用できる。	第11回で取り上げた内容の復習と第12回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
12	設備投資と研究開発①	・資産の分類ができる。 ・固定資産の取得原価の計算ができる。	第12回で取り上げた内容の復習と第13回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
13	設備投資と研究開発②	・資産除去債務について理解できる。 ・減価償却費の意義を理解でき、計算できる。	第13回で取り上げた内容の復習と第14回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
14	設備投資と研究開発③	・無形固定資産の意義が理解できる。 ・研究開発費の会計処理ができる。	第14回まで取り上げた内容の復習。
	<b>期末試験</b>		
15	答案返却・解答解説 全体の学習事項のまとめ 授業改善アンケートの実施	・試験問題の解説を通じて、間違った箇所を理解できる。 ・全体の学習事項のまとめが理解できる。	
<b>総 学 習 時 間 数</b>			45時間
<b>講 義</b>			30時間
<b>自学自習</b>			15時間